

中華人民共和国駐日本国特命全権大使呉江浩氏が本学を訪問しました



10月15日、中華人民共和国駐日本国特命全権大使呉江浩氏は杜柯偉、張漪波公使参事官ら随行員を率いて、本学を訪問し、キャンパス全体の熱烈な歓迎を受けました。



キャンパスに入ると、呉大使は本学孔子学院日本側の熊達雲院長、中国側の趙蔚青院長の案内の下、まず孔子学院の事務、教育研究、学術交流などの場所を視察し、孔子学院の教職員と親しく話を交わしました。



続いて呉大使一行は本学所属の「学校法人 C2C Global Education」理事長の古屋光司教授、学長の青山貴子教授、国際化担当副学長の張華教授、学長代理の秋田辰巳教授らと会見し、懇談会を行いました。古屋理事長と青山学長が本学の基本状況と現在展開されている国際化キャンパス整備の現状とビジョンを紹介しました。これに対し呉大使は本学が学生の育成、中日教育学術文化交流の促進、特に留学生を育成する面で大きな発展と進歩を遂げたことを高く評価しました。



その後、古屋理事長、青山学長の付き添いで呉大使一行は52号館8階会議室に入り、交流会に出席しました。呉大使はまず山梨学院大学の国際交流、学生育成や教育の面での成果を称賛し、中国の政治経済の現状と発展の見通し、中米関係、中日関係の現状と展望を紹介しました。法人所属機関の中堅幹

部、教職員及び学生代表ら約 70 人が交流会に参加しました。



吳大使は最近、40 カ国以上の外交使節に同行して上海と青海省を訪問したことを通じて、中国式現代化の真髄を説明し、それによる世界平和発展への貢献を詳しく展望しながら、現在の世界情勢は不安定で、中米関係は一定の困難に遭遇しているが、中日両国は戦略的互惠関係の建設というレールに沿って進んでおり、且つ、中国の更なる発展と進歩に伴い、中米関係も必ずや好転するであろうと見通しを披露しました。これは、アメリカの民衆を含む世界の人々が、平和と発展を求め、より良い生活を送りたい願いが共通でかつ熱いからであるということです。



呉大使は最後に、平和と発展を実現し、すべての民衆が現代化の果実を公平に分ち合うことができるようにするため、中国政府は人類運命共同体を構築するビジョンを打ち出したと強調しました。彼は中日両国の民衆、特に若い世代が緊密に交流し、相互理解を増進し、共に手を携えて人類運命共同体の建設に参加すべきだと真摯に希望しています。中日両国の民衆が手を携えて進めれば、必ず1プラス1が2より大きな効果を収め、東アジア、アジア、ひいては世界の平和を守るために重要な貢献をすることができると訴えました。



呉大使の熟練した日本語の演説は、簡潔で意味が深く、ユーモラスたっぷりで面白く、聴衆の歓声と笑いを誘い、参加者は高い共感、同感を受けとめ、熱烈な拍手を送りました。

(執筆 熊 達雲 撮影 平川 大雪)